



美しい田園21通信



〒105-0004

東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館

NPO 美しい田園 21

Tel 03-3434-5056 Fax 03-3434-5057

メール npo@denen21.jp

問い合わせや活動報告はこちらへ

ホームページ <http://www.denen21.jp/>

最新情報や田園通信のバックナンバーはこちらから

目次

- | | |
|------------------------------|------|
| 1 「福島潟クリーン作戦」活動報告 | 北陸支部 |
| 2 白根郷根岸地区ウォーキングと清掃ボランティア活動報告 | 北陸支部 |

1 「福島潟クリーン作戦」活動報告 北陸支部

4月8日(土)、桜の蕾も少なく、いまだ肌寒い新潟県北・福島潟で恒例の「クリーン作戦」が行われました。

このクリーン作戦は豊かな自然を残す潟湖・福島潟で自然に触れながら不法投棄等のゴミ類を回収し、自然の大切さと環境浄化に対する意識の高揚・啓発を図ることを目的に、今回で38回を数える歴史のある環境保全活動です。

活動は潟湖・福島潟の「自然保護」と「利用・活用」に関連する各種団体(3市、5土地改良区、1漁協)で連携・組織した「福島潟環境対策推進協議会」(事務局:新潟市)が毎年この時時期に開催しているものです。

当日は心配された雨や風もなく絶好の活動日和となり、各種団体をはじめ春休みの学生や、家族連れなど種々の立場・目的から、思い思いのスタイルで黙々と美化活動に精を出していました。

潟湖に流入するペットボトル・ビンなどの生活ゴミや、ビニール袋やいは不法投棄された大型廃棄物などで、作業エリア内に設置された仮集積場が直ぐ満杯になる状況に、人間の生活活動による自然界への影響の大きさを改めて考えさせられました。

(追伸:湖面の作業船では浮遊するゴミの回収だけでなく遺体も発見し、パトカーの出動があった模様)

クリーン作戦には主催者集計で、約700名の参加がありました。

NPO 田園21等から113名の参加があり、中には石川県金沢市、東京などの遠方から駆けつけた参加者もいました。

美化活動は干拓堤防、揚排水機場、承水路など今も地域資源として立派にその機能を発現している干拓施設の周辺で行われ、干拓事業の歴史と、その意義に思いを馳せながら、気持ちの良い汗を流したところです。



クリーン作戦に集結した参加者



NN部隊の精鋭達



清掃活動状況 1



清掃活動状況 2

「潟湖・福島潟」紹介



越後絵図(1645):新潟市HPに加筆

□「北蒲原」

新潟県北の一級河川・荒川から南に位置する信濃川までは、現在7つの河川・放水路が日本海に注いでいる。しかし、江戸時代以前、この約40km間における内陸部の排水は、日本海からの強風・波により形成された小高い「新潟砂丘」により排出をさえぎられていたため、この砂丘に沿って南下し、阿賀野川と共に信濃川に合流した後、日本海に注いでいた。この為、この地域には大小の潟湖が点在する低湿地が広がり、「蒲(がま)」が生い茂っていたことから、「水沼の蒲原(みずぬまのがまがはら)」と言われ、地名「北蒲原」の由来となっている。

□「松ヶ崎掘割工事」

藩制が安定した江戸中期になると、増水対策として、信濃川合流付近で直接日本海に放流する「松ヶ崎掘割工事」(1730年)が行われたが、完成した翌年春の増水によりこれが本流となり、信濃川と分離して現在の阿賀野川となった。この結果、河川水位は約2mも低下して、内陸部が陸地化するため、各種開発が急速に進展したものの反面、用水確保も対応せざるを得ない状況となった。



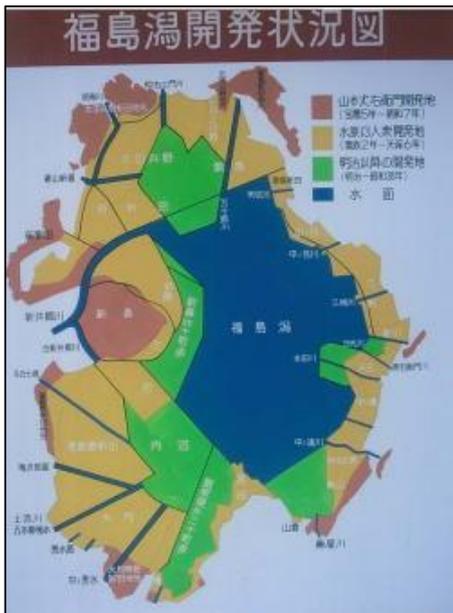
「北陸地整局HP」より

□「福島潟干拓」

福島潟周辺も1750年頃より新発田藩や、大地主・市島家などにより大小の干拓が約200年間に亘り盛んに行われた。その後1961年の国営新井郷川排水機場の完成を契機に内水位の低下が促進され、1968年には国営福島潟干拓事業が着工された。この干拓事業は当初、福島潟の全てを干拓する計画であったが、二度の水害発生により地域の治水機能が見直しされたために半分の169haの農地を創出する留まり、福島潟の干拓がここに終結することになった。これは、松ヶ崎掘割工事で降、約250年後のことであり、この間に様々な干拓が行われ概ね700haの農地の創出と、周辺地域の排水改良が行われている。

この様に干拓事業は食糧増産、雇用・生活対策、米の生産調整、洪水調整など時々の変化(要請)に伴い、事業目的・内容も変化せざるを得なかったが、干拓事業を通じて地域の農業経営・構造の

変革に留まらず、災害・湛水被害の防止や、生活環境の改善など地域社会・経済への波及効果は計り知れないものがあった。



「新潟市HP」より

□現在の「福島潟」

福島潟は現在も干拓事業により創出された優良な農地・農業地域が維持されている一方、残された水面・潟には220種類以上の野鳥、350種類以上の植物が確認される自然の宝庫でもあり、潟・水の駅「ビュー福島潟」を中心に総合公園化され、貴重な自然環境を県・市民に提供している。



2. 白根郷根岸地区ウォーキングと清掃ボランティア活動報告 北陸支部

多面的な機能を有する田園地帯の不法投棄の現状を認識し、環境保全の啓発を目的とした「白根郷根岸地区のウォーキングと清掃ボランティア活動」が、桜の花が満開の4月16日(日)に開催されました。

この活動は水土里ネット白根郷・根岸地区が中心に地元自治会並びに地域の各種団体との連携下、毎年この時期に開催され今回で13回を数える永い活動です。

白根郷根岸地区は地元自治会や小学校との連携の下、サツマイモ、ねぎ、水稻など農作物の植え付けから収穫まで、学童の農業体験活動を通じた情操教育も実施しており、ふるさとの生い立ちや、農業はじめ地域の財産などを学んでいます。これらの活動を通じて農村の絆の醸成・復活や、地域活性化に努めている地域です。

当日は風が強いものの心配された雨も上がり、地域の子供や住民など総勢約145名が参加しました。NN関係からは彦三会(OB会)・田園21の会員6名が参加し、国営事業の実施を通じて知り合った地元、水土里ネット職員とともに桜並木の水路沿いの片道約3kmをウォーキングしながらゴミ拾いを行いました。

活動は田園地帯であるものの農業用のゴミは皆無でしたが、道路沿と言うこともあり、水路の中や道路法部には空き缶・瓶、コンビニ袋などの生活ゴミが散乱している状況に、改めてフリーライダーの無責任さに閉口しました。

活動終了後は地元住民のご好意により具沢山の「きのこ汁」を頂き、疲労の解消と満たされた胃袋・達成感で大満足なひと時でした。

郷内では国営事業などの実施により用排水施設が整備されました。これらの資源・財産を基に郷内各地では水土里ネット白根郷が地元自治会との連携下「田んぼダム」や交付金を活用した「多面的機能保全活動」を積極的に取り組んでいます。

NPO 田園21は今後も彦三会と連携の下、当該地域の環境保全活動をサポートして行かなければならないとの新たな思いで帰路に着きました。

田村理事長の挨拶



満開の桜の下で美化活動



活動前の会員



「きのこ汁」を頂き疲労解消



「白根郷地区」紹介

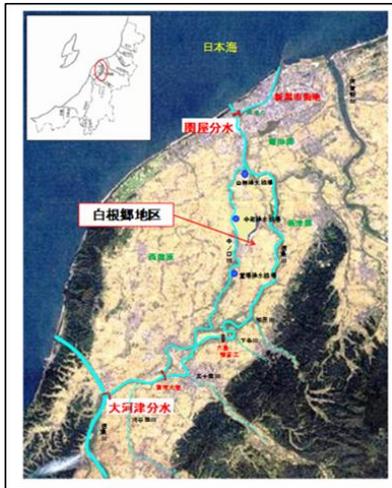
初夏の風物詩
”白根大凧合戦”



※水土里ネット白根郷HPより

□地区の状況

白根郷は政令指定都市・新潟市の南部に位置し、一級河川・信濃川と、その支流・中之口川に囲まれた完全輪中地域である。郷内の大部分は河川の平水位より低く、昔から常に河川の洪水と郷内の



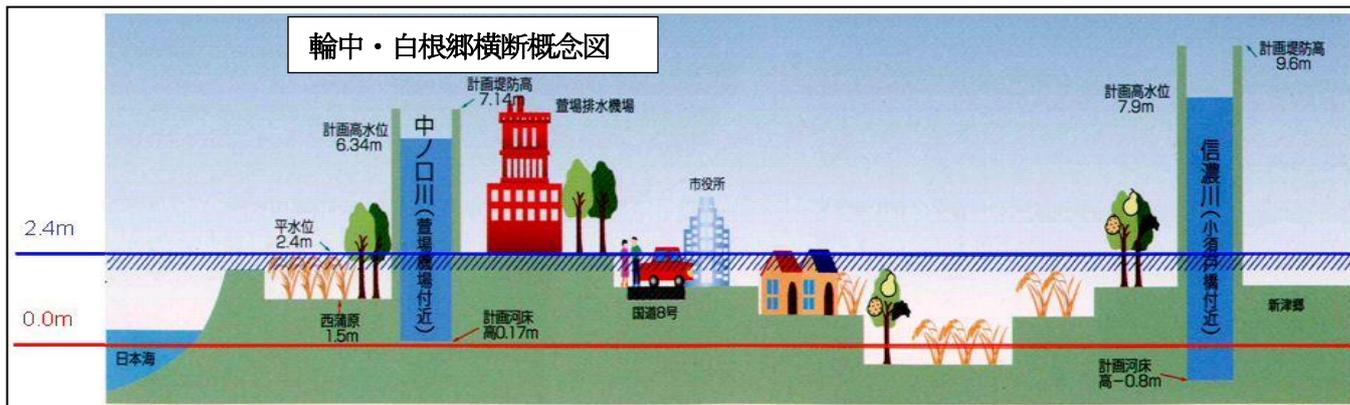
より低く、昔から常に河川の洪水と郷内の湛水との背中合わせの生活を余儀なくされて来た。この為、河川上流の大河津分水工の完成を契機に、郷内では土地改良事業が盛んに行われたが、高低差が少ない低湿地ゆえ常に用水改良と排水対策が表裏一体の関係で取り込まれ、国営かん排事業「信濃川下流地区」(s 5 7-H 7)で用水改良が、国営農地防災事業「白根郷地区」(H 6-H 2 0)で排水対策が整備され、永年の課題が解消され現在に至っている。

□新たな挑戦

郷内では国営事業を始め各種土地改良事業の実施により、永年の課題であった用・排水分離と乾田化を実現したが、近年の地域農業農村の新たな変化・課題にも水土里ネットが果敢に取り組んでいる。

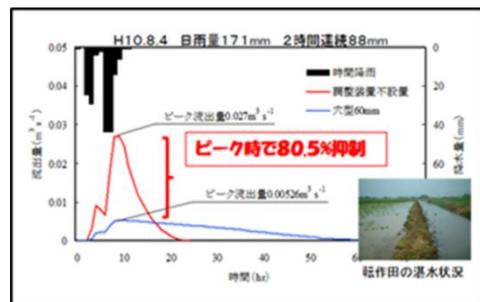
① 多面的機能保全活動

整備された用・排水施設や、優良な農地と豊かな環境を今後も保全することにより地域の農業農村を下支えすることを目的に、地元自治会など各種団体と連携して「多面的機能保全活動」が郷内農地の約75%の地域で積極的に取り組まれている。



② 田んぼダム

国営農地防災事業の実施により30年確率の降雨量に対応した整備が図られているが、その後の農地転用等開発行為の増加や近年の集中降雨(ゲリラ豪雨)により、郷内でも湛水被害地域が多発している。この為、郷内水田の約6割の地域で「田んぼダム」を農家が自主的に取り組み、湛水被害の軽減と排水機場等基幹施設の負荷軽減に努めている。



③ 高温障害対策

地球規模の温暖化は郷内の水稲にも高温障害(品質低下)をもたらしている。この為、灌漑期間の延伸や用水の増量など積極的な営農支援に取り組んでいる。

